

令和4年度 1学年「国語科」シラバス

学習の目標

日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにします。順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにします。言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養います。

評価の観点

評価の観点	評価規準
知識・技能	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもっている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをもったりしながら、言葉がもつよさを感じようとしているとともに、楽しんで読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。

評価の方法

国語の学力は主に次のような方法で把握します。

- 授業態度 ○発言、発表 ○音読・朗読 ○单元テスト ○小テスト
○ワークシート ○作文 ○ノート ○提出物

学習計画

単元名	主な学習内容	家庭学習で 取り組めること
<p>○いいてんき ○おはなしたのしいな</p> <p>○あつまってはなそう ○えんぴつとなかよし</p> <p>○どうぞよろしく ○なんていおうかな</p> <p>○こんなものみつけたよ</p> <p>○うたにあわせてあいうえお</p> <p>○こえにだしてよもう ○ききたいなともだちのはなし</p> <p>○たのしいなことばあそび ○はなのみち</p> <p>○としょかんへいこう ○かきとかぎ</p> <p>○ぶんをつくろう ○ねことねっこ</p> <p>○わけをはなそう</p> <p>○おばさんとおばあさん ○くちばし</p> <p>○おもちゃとおもちゃ ○あいうえおであそぼう</p> <p>○おおきくなった ○おおきなかぶ</p> <p>○はをへをつかおう ○すきなもの、なかに</p> <p>○おむすびころりん ○としょかんとなかよし</p> <p>○こんなことがあったよ</p> <p>○こえにだしてよもう</p> <p>○ききたいな、ともだちのはなし</p> <p>○たのしいことばあそび ○やくそく</p> <p>○かたかなをみつけよう</p> <p>○うみのかくれんぼ ○かずとかんじ</p> <p>○くじらぐも ○しらせたいな見せたいな</p> <p>○まちがいをなおそう ○ことばをたのしもう</p> <p>○かん字のはなし</p> <p>○じどう車くらべ</p> <p>○じどう車ずかんをつくろう</p> <p>○かたかなをかこう</p> <p>○ともだちのことをしらせよう ○むかしばなしをよもう</p> <p>○ものの名まえ ○わらしべちようじゃ</p> <p>○日づけとよう日</p> <p>○てがみでしらせよう</p> <p>○こえに出してよもう</p> <p>○ききたいな、ともだちのはなし</p> <p>○たのしいことばあそび ○たぬきの糸車</p> <p>○かたかなのかたち ○ことばを見つけよう</p> <p>○どうぶつの赤ちゃん ○これは、なんでしょう</p> <p>○ずうっと、ずっと大すきだよ</p> <p>○にているかん字</p> <p>○いいこといっぱい、一年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て見付けたことや想像したことを話す。 ・読み聞かせや相手の話を聞き、感想を発表する。 ・正しい姿勢や鉛筆の持ち方を知る。 ・自己紹介をし、たくさんの友達と交流をする。 ・姿勢や口形、発音や発声に注意して音読をする。 ・知らせたいことや聞きたいことを落とさないように聞き、感想をもつ。 ・語のまとまりや言葉の響きなどに注意して音読をする。 ・濁音、半濁音を含む言葉を読んだり、書いたりする。 ・主語と述語の関係を理解して「○○が○○する」という文を書く。 ・長音を含む言葉を読んだり書いたりする。 ・事柄の順序や内容に注意しながら読む。 ・拗音を含む言葉を書いたり読んだりする。 ・観察記録を書き、書いたものを読み合い交流する。 ・「は」「を」「へ」を正しく使って、正しく文を書いたり読んだりする。 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読をする。 ・経験したことを知らせる文章を書いたり、読み合って交流したりする。 ・伝えたい事柄を考え、発表の仕方を知り、発表する。 ・場面の様子や登場人物の行動を捉えながら、想像を広げて読む。 ・カタカナを読む。カタカナを使いながら言葉や文を書く。 ・事柄の順序や、文中の主語と述語の関係に注意しながら読む。 ・一から十までの漢字を読んだり書いたりする。 ・場面の様子や登場人物の行動について、想像を広げながら読む。 ・見つけた事柄を文章で書く。 ・漢字の成り立ちを知り、漢字を書いたり読んだりする。 ・文章全体の構造や、事例について考えながら読む。 ・説明の順序に気を付けながら文章を書く。 ・片仮名を使って短文を作る。 ・聞いたり質問したりしたことを集中して聞き、感想をもつ。 ・事柄の内容を表す言葉理解し、お店屋さんごっこをする。 ・日付や曜日に使われる漢字を書いたり読んだりする。 ・手紙の書き方を知り、手紙を書く。 ・好きな本を友達に紹介する。 ・言葉遊びの仕組みを理解し、言葉遊びを楽しむ。 ・場面の様子や登場人物の行動を想像しながら音読する。 ・事柄の内容を表す言葉を理解し、言葉クイズを作って解き合う。 ・事例を比べながら読む。 ・文章を読んで感じたことを伝え合う。 ・形の似た漢字に気を付けながら習った漢字を読んだり書いたりする。 ・事柄を集め、事柄の順序、語と語や文と文の続き方に注意して書く。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>年間を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平仮名・カタカナ ・漢字の練習 ・音読 ・文作り </div> <ul style="list-style-type: none"> ㊦「うたにあわせてあいうえお」 ・文作り ・長音・促音・濁音・拗音などの言葉集め ㊦「くちばし」 ・文作り ㊦「おおきなかぶ」 ・助詞の使い方 ・平仮名のまとめ ㊦「おむすびころりん」 ・読書 ・言葉集め ㊦「うみのかくれんぼ」 ・漢字の練習 ㊦「くじらぐも」 ・文作り ・読書(昔話) ・漢字の練習 ㊦「じどう車くらべ」 ・書き初めの練習 ・言葉集め ・言葉集め ㊦「たぬきの糸車」 ㊦「どうぶつの赤ちゃん」 ㊦「ずうっと、ずっと、大すきだよ」 ㊦「だってだつてのおばあさん」 ・一年間のまとめ

令和4年度 1学年「算数科」シラバス

学習の目標

幼児期に育まれた数量・図形への関心・感覚などの基礎の上に、算数の学習を始めるに当たって必要となる資質・能力の育成を図ります。

数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、加法及び減法の計算をしたり、形を構成したり、身の回りにある量の大きさを比べたり、簡単な絵や図などに表したりすることなどの技能を身に付けるようにします。

数量や図形へ親しみをもち、それらに対する感覚を豊かにするとともに、算数を学ぶことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとする態度を養います。

評価の観点

評価の観点	評価規準
知識・技能	数の概念とその表し方及び計算の意味を理解し、量、図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を積み重ね、数量や図形についての感覚を豊かにしている。 加法及び減法の計算をしたり、形を構成したり、身の回りにある量の大きさを比べたり、簡単な絵や図などに表したりすることなどについての技能を身に付けている。
思考・判断・表現	ものの数に着目し、具体物や図などを用いて数の数え方や計算の仕方を考える力、ものの形に着目して特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりする力、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の大きさの比べ方を考える力、データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉える力などを身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	数量や図形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

評価の方法

算数の学力は主に次のような方法で把握します。

- 授業態度 ○発言、発表 ○単元テスト ○小テスト
○ワークシート ○ドリル ○ノート ○提出物



学習計画

単元名	主な学習内容	家庭学習で取り組めること
○ くらべたことあるかな	・数や量についての経験を話し合う。	・日常の身近なもので仲間を作り、その数を数える練習
○ おおいのはどちらかな	・10までの数について数を比べたり数えたりする。	・順序を数える練習
1 なかまづくりとかず	・具体物を数えながら数詞と数字を対応する。 ・数の構成を確認し、5の合成分解、10の合成分解を具体物や半具体物を用いて理解する。	・合成・分解の練習、特に「いくつといくつで10」が言えるようにする
2 なんばんめ	・10までの数を唱えたり書いたりする	・たし算、ひき算の練習
3 あわせていくつふえると いくつ	・絵や具体物を数えながら、前後左右や上下の位置に合わせて数を唱える。	・計算カードでの反復練習
4 のこりはいくつちがいは いくつ	・合併や増加の場合についてたし算の意味を知る。 ・和が10以内のたし算を式で表す。	・20までの数を唱える
5 どちらがながい	・ひき算の意味（減少、差）を知る。 ・10以内の引き算について式に表す。	・身近なものの長さを比べる練習
6 わかりやすくせいりしよう	・直接比較や間接比較などで、ものの長さを比べる。	
7 10よりおおいかず	・物の個数を種類ごとに分けて整理する。 ・20までの数の個数を数えたり数を読んだり書いたりして、数の構成を理解する。	・時計を読む練習
8 なんじなんじはん	・何時、何時半の時刻を読む	・身近な体積を比べる練習 (コップでいくつ分)
9 3つのかずのけいさん	・3つの数の加減計算の場面を一つの式に表す。	・計算カードでの反復練習 (10のまとまりを意識する)
10 どちらがおおい	・直接比較や間接比較などで、入れ物の体積を比べる。	・積み木あそび、折り紙あそび
11 たしざん	・10のまとまりに着目して、1位数同士の繰り上がりのあるたし算をする。	・計算カードでの反復練習 (10のまとまりを意識する)
12 かたちあそび	・身の回りのものの形について、概形や特徴を捉え、分類する。	
13 ひきざん	・11～18から1位数をひく繰り下がりのあるひき算をする。	・100までの数を数える練習
○ どんなけいさんになるの かな	・問題文を読んで、それぞれどんな式を立てればよいか考える。	・2とびや5とび、10とびで数を唱える
14 おおいかず	・100までの数を正しく数え、読んだり、書いたりする学習をする。	・身近な面積を比べる練習 (オセロで遊ぶ)
15 どちらがひろい	・直接比較やマス目の数によって面積を比べる。	・時計を読む練習
16 なんじなんぶん	・何時何分の時刻を読んだり、時計に表したりする。	・身近な事象で文章問題の練習
17 たしざんとひきざん	・順序数や異種の数量を含む加減の場面、求大や求小の場面を式に表す。 ・加減の意味を図に表して考える。	・形遊び、点つなぎ
18 かたちづくり	・色板や棒を使っていろいろな形を作る。	・1年間の復習
○ 1ねんのふくしゅう	・既習内容の復習をする。	

○年間を通して、計算カード（7月～3月）